

日本ファミリーバドミントン協会

新型コロナウイルス感染症対策に伴う ファミリーバドミントン活動ガイドライン

令和2年7月22日

はじめに

本ガイドラインでは、「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会作成）を基にファミリーバドミントン活動の特性を考慮したガイドラインを示し、活動再開を支援していくことを目的としています。

1. 感染症拡大防止と予防

①手洗い

石鹸を使って、30秒以上洗ってください。（手指の消毒液も有効）

②換気

ウイルスが滞留しないように換気を行ってください。常時換気が可能ではない施設の場合は、2方向の扉や窓を開放し、毎時5分間全ての窓や扉を開放して換気を行ってください。

③咳エチケット

咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえてできる限り人のいない方向を向くようにしてください。

④3密（密集、密接、密閉）を回避する

不特定多数の人が集まる場所（特に換気の悪い場所）は感染リスクが高まります

⑤口・鼻・目を不用意に触らない

接触感染のリスクが高まります

⑥マスクの着用

移動時や会話をする時などは、正しく着用する。

⑦ソーシャルディスタンスの確保

人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空けてください。

⑧大きな声を出さないでください。

⑨健康状態・行動の記録

運動開始前には検温をし、健康記録をとってください。発熱や疑わしい時は、無理せずに自宅で待機してください。また、感染者発生時に備えて行動記録をとってください。

2. 運動環境の確保

- ① 消毒液を用意し、常時利用できるよう設置してください。
- ② スポーツ中も、移動や待機といったそれ以外の時も感染予防の観点から周囲の人となるべく距離（ソーシャルディスタンス）を空けてください。
- ③ 休憩中や周囲の人と会話をする際には、対面を避けて同様の距離をとってください。
- ④ ランニング・ウォーキングの時など意識的に通常時以上の距離をとってください。
- ⑤ 飛沫拡散防止のため運動・スポーツ中に大声は出さないでください。
- ⑥ 感染拡大防止のため、移動や休憩中にはマスク等を使用してください。
- ⑦ 呼吸困難や熱中症になるリスクがあるため、マスクを着用しての運動は行わないでください。
- ⑧ 換気は常時行うことを基本とし、施設内の換気施設使用や窓や扉を開放し実施してください。なお、常時換気が行えない時には定期的（30分を目途）に換気を行ってください。

3. 競技において注意すること

シャトルを介して相手とラリーを行うスポーツです。そのため、シャトル・ネット等の共用で使用する部分からの感染に注意が必要です。

- ① 一定の終息が見込まれるまでは、運動強度が高く、飛沫感染のリスクがある場合には、練習メニューを考慮してください。
- ② プレイ中は、他のプレイヤーと重なる（接近する）場面があるので、注意してください。
- ③ コート外ではマスクを着用してください。
- ④ シャトルの受け渡しの際にラケットを使用して手を極力使わないようにし、シャトルやシャトルに触れた手を顔に近づけないようにしてください。
- ⑤ シャトルは試合ごとに交換し、その間消毒（特に羽根部分）しておいてください。
- ⑥ 汗が床などに落ちないようにタオルなどを使用しこまめに拭き取ってください。
- ⑦ 床の汗は、モップ等で拭きとってください（自分のタオルを使用して拭かない）。
- ⑧ 練習の準備を行う際、ネットやポストなどの備品を消毒し、最少人数で行ってください（片づけの際も同様）。
- ⑨ 練習中に使用するタオルやコップ等の共通利用や水分補給のドリンクタンク等の利用はせず、必ず一人一人が個人の物を準備し使用してください。
- ⑩ ラケットやシューズなどの道具は自分専用の物を準備する。やむを得ず共用の物を使用する時は、使用前後に消毒してください。
- ⑪ 使用した各自の着衣やゴミは必ずビニール袋等で封をしてそれぞれが個人で持ち帰ってください。

- ⑫チェンジコートする時は同じ方向に回って、チェンジしてください。
- ⑬ポイント時のハイタッチなどの接触は遠慮してください。
- ⑭ホイッスルは、自分専用のものを使用してください。
- ⑮試合開始時、終了時の握手は避けてください。
- ⑯主審、線審、得点係りはマスク等を着用し、飛沫防止対策をとってください。
- ⑰当面の間は、電子ホイッスルの使用を可とします。

4. 大会や交流会などの試合について

イベント開催制限の段階的緩和の目安（その1）

【別紙】

- 「新しい生活様式」に基づく行動。手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等を避けるなど、基本的な感染防止策の徹底・継続。イベント主催者や出演者は「業種別ガイドライン」等に基づく行動、参加者の連絡先把握、接触確認アプリの周知、イベント前後の感染対策（行動管理含む）の呼びかけ。
- 感染拡大の兆候やイベント等でのクラスターの発生があった場合、イベントの無観客化や延期、中止等も含めて、国と連携しながら、都道府県知事が速やかに協力を要請。その際、専門家によるクラスターの発生原因やそれへの有効な対策等に関する分析を出来る限り活用（業種別ガイドラインの改定にも活用）。緊急事態宣言が出た場合、対策を強化。
- 今後、感染状況等に変化がみられる場合、段階的解除の目安の変更や必要な対策等を通知。

<基本的な考え方>

時期		収容率	人数上限
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	屋内	50%以内	100人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	200人
ステップ② 6月19日～ *ステップ①から約3週間後	屋内	50%以内	1000人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	1000人
ステップ③ 7月10日～ *ステップ②から約3週間後	屋内	50%以内	5000人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	5000人
【移行期間後】 感染状況を見つ、 8月1日を目途 *ステップ③から約3週間後	屋内	50%以内	上限なし
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	上限なし

(注) 収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）。

当面の間は、中止とし、段階的に再開することとします。

活動時のチェックリスト

活動前

<input type="checkbox"/>	練習施設までのマスク着用を徹底する
<input type="checkbox"/>	練習前に検温を行い、体調に不安のないことを確認の上、指導者に報告をする (体調は個人差があります。無理に参加をしないこと)
<input type="checkbox"/>	参加者全員の体調を確認してから実施する (発熱者や体調不良者は練習に参加させない)
<input type="checkbox"/>	ネットやポストなど設備の消毒を行い、最少人数で準備を行う
<input type="checkbox"/>	タオルやドリンクは個人のもを用意し、各種用品の消毒を行う
<input type="checkbox"/>	換気を行い、換気の行うタイミングを決定・確認する

活動中

<input type="checkbox"/>	練習時に過密になっていないか常に注意する
<input type="checkbox"/>	マスクはコート内練習以外ではなるべく着用する
<input type="checkbox"/>	ネットやポストなどの設備には触れない。
<input type="checkbox"/>	コートに入っていない時、人との間隔（フィジカルディスタンス）を維持する (ラケット2本で約1.3m、3本で約2m)
<input type="checkbox"/>	シャトルの受け渡しの際に手を極力使わない
<input type="checkbox"/>	シャトルを顔に近づけない
<input type="checkbox"/>	他人のタオルやドリンクなどには触らない
<input type="checkbox"/>	換気を定期的に行う
<input type="checkbox"/>	ホイッスルは兼用しない

活動後

<input type="checkbox"/>	ネットやポストなど設備の消毒を行い、最少人数で片づける
<input type="checkbox"/>	飲み残しの処理は適切場所で行うこと。(自宅に持ち帰るなどする)
<input type="checkbox"/>	帰宅経路中のマスク着用を徹底する
<input type="checkbox"/>	参加者の氏名・連絡先・体調報告を1ヶ月保管する

※指導者の方は、感染拡大防止を第一に考え、活動を行ってください。